

組合創立120周年記念連載② 「模範従業員表彰式の歴史」

副理事長 森林慎介

東京木材問屋協同組合の前身である東京材木問屋同業組合は、明治39年(1906年)に創立され、定款に模範となる使用人(店員)の褒章に関して次のように定めていた。

東京材木問屋同業組合定款

第十二条 当組合員ニ於テ使用人中品行方正ニシテ業務ニ励精シ他ノ模範トナルヘキ者、又ハ営業上特殊ノ功労アルモノハ其雇主ヨリ本人ニ関係ナキ組合員三名以上ノ証明書ヲ以テ組長ニ申告スベシ
組長ハ事実ヲ調査シ役員会ノ決議ヲ以テ之ニ褒章ヲ與フヘシ

第1回の表彰式は、明治42年(1909年)2月25日に京橋区(現在の中央区)木挽町の萬安楼で行われた。提出された履歴書(書類)には、社員の出身地、年齢、学歴、勤続年数、勤続の概要、賞罰の有無などが記入され、雇用主の認証文と捺印があった。11名の従業員が表彰され、褒状が贈られた。模範店員の表彰は、毎月発行する月報に次いで商況や市場への入出荷調査と並ぶ重要事業に数えられ、事業費を配分していた。この年度の奨励費予算は50円計上されていた。模範店員の表彰はその後「店員奨励委員会」が設けられ軌道に乗り、大正5年(1916年)3月13日の第8回の表彰式では6名の方に銀杯が贈られた。



名誉の受賞者

(前列右より) 杉山安太郎店員 戸部福蔵、長島伍助店員 山口六之助、竹清合資会社店員 中村庸一。
(後列右より) 筒井忠次郎店員 古川倉吉、栗本伊十郎店員 鈴木三郎、鳥飼銀蔵店員 柳内孫兵衛。

日本橋区矢ノ倉福井楼 大正5年(1916)3月13日

(江戸東京木材史P457)



履歴書 (江戸東京木材史P459)

大正13年(1924年)2月に予定されていた表彰式は、関東大震災の影響で中止にせざるをえなかった。昭和16年(1941年)に施行された木材統制法により、昭和17年(1942年)3月25日の表彰式で戦前については終止符がうたれた。明治42年(1909年)から昭和17年(1942年)の34年間で約800名の方が表彰された。戦後は昭和29年(1954年)から再開された。令和8年(2026年)の開催で戦後73回目となり、3,337名の方が表彰された。しかし令和2年(2020年)から3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は行わず、受賞者に記念品を郵送した。

戦後の開催場所は、清澄庭園大正記念館、椿山荘、明治小学校講堂、尾崎記念館、新橋演舞場、木材健保会館、昭和51年(1976年)からは木材会館(深川)7階講堂、そして平成22年(2010年)からは木材会館(新木場)7階大ホールにおいて開催されている。現在は受賞者に賞状、写真、カタログギフト、お菓子等を贈呈している。

(本文は江戸東京木材史より抜粋)